

学校教育目標

笑顔で

かしこく

たくましく

上谷の丘

～ 本当の笑顔と学びがある学校を ～

坂戸市立上谷小学校 学校だより

令和3年 7月 16日 NO. 9

文責 校長 柴崎 利美

児童数183名（7月16日現在）

1学期のまとめを

～ 何を学んで、何ができるようになりましたか？ ～

各クラスで1学期の振り返りをしています。子供によっては、すでに夏休みの宿題を憂えている子もいます。子供達も保護者の方々も、そして担任の先生もそれぞれの思いをもって夏休みを迎えるのです。上谷っ子の皆さん、この1学期「何を学んで（勉強して）、何ができるようになりましたか？」いくつかあげられる上谷っ子は素晴らしい。ぜひ振り返ってください。また、これは学校のお勉強だけのことではありません。お家の中での「役割」も同じです。保護者の皆さん、お子さんが食器洗いでも下膳でも、誰にも言われなくても、そして上手にできるようになっていたら、大いにほめてあげてください。「よい継続がよい人格（人間）」を



作ります。

学校・点描

～ それ、そっちだ。捕まえろ！ ～

7月7日（水）例年田んぼをお借りして、稲作りをはじめ様々な体験活動をお願いしている「原農場の原さん（紺屋）」の田んぼ周辺で、12年生の上谷っ子がザリガニやカブトエビ、小魚捕りを体験しました。子供たちはかなり興奮気味で、たくさん捕まえましたが、まだ生きていますか？先生方も興奮気味でしたが大変大切な事だと思えます。いい体験ができました。また、保護者の方々にも同行をお願いして、行き帰りの「安全確保」をしていただきました。ありがとうございました。原さんにもあらためてお礼を申し上げます。



（ おっ、いたぞ ）

～ 臭いね… けれど、ないと困るね！ ～

同7月7日（水）4年生が校外学習で「西清掃センター・環境学館いずみ」にて学んできました。西清掃センターでは巨大な集積エリアに見なれた「赤いゴミ袋」がたくさん集められます。その量の多さ、エリアの深さもさることながら、その臭いにはみなさんびっくりしたことと思います。けれど、たくさんの人間が生きて行くということは、同時にたくさんのゴミも発



（ うわ、すごいにおい！ ）生ずるということなのです。「捨てればサヨナラ」ではなく、それを収集する人がいること、まとめて処理していく施設があること、を実感したことと思います。私たちにできることはなんでしょう。分別する事、量を減らす事、他にもありますよ。勉強してきたかな？

ミスト
噴出口
×11

～ ミストのおどろき！ うわー 涼しい… ～

念願であった昇降口のみスト装置の設置が完了しました。2階の事務室から水を引いて、昇降口の天井に沿ってパイプを取り付けたのです。このところずっと雨の日が続いたので、取り付け工事ができませんでした。最初は噴出孔の取付角度が合わず、ポタポタ水滴が垂れる所もありましたが、修正しました。上谷っ子はみな「あれ？雨？？え？」と驚いていましたが、「うわー、涼しい」と上を見上げ、両手を広げてミストを浴びています。なるほど子供と水は親和性が高い。ただ、昇降口の外床と階段が少々濡れるので滑らないよう注意をしてください。担任の先生も声掛けをしています。登校時、下校時、体育授業の出入り時に「熱中症予防」の一助として活用したいと思います。



「お話朝会」考 ～ できるようになるためのヒント ～

前号でも紹介しましたが、お話朝会（令和3年度）は7月で4回の実施となりました。

「しぐさ」についての内容でした。全部聴き取れる児童（2～6年）は少ないですが、自分が気になったところを覚えて「書きこむ」のはどの子も同じです。7月のお話朝会での「はさみ・えんぴつ」の渡し方については「刃や先を自分の方を向けて渡す」と、ほとんどの子が書いていました。普段の生活によくある場面だからでしょう。子供たちの中には、一行のみ「人を指で指さない。」で終わっている子もいます。これも生活経験でお父さんお母さんから言われたことかもしれません。これも普段の生活の中で気にかけていることなのでしょう。



（構成（型）ができて例 6年）

さて、お話朝会ではいつも話の構成を3部仕立てにしています。そしてその1部ごとに、具体的なことを3つ話をしていきます。あえてそうしています。子供にしてみれば、各部ごとに3つの具体文を書くわけですから、全部で9つの具体文を聴き取り、覚え、書くことになります。前述の「人を指で指さない。」は構成3つ目「かっこわるいしぐさ」の1つ目の具体文です。

構成（型）を意識して書く子はやはり高学年で多くなりますが、ぜひ初めから決まった構成を理解して欲しいと思います。型を意識し書いている子は伸びしろが大きいのではないかなと。そう感じています。担任の先生によっては「はじめに枠を3つ作ってごらん。」と全体を3つに分ける指導をしている先生もいるかもしれません。

大人になると様々な「レポート」「報告書」「論文」etc…。書く機会があります。それぞれ型が決まっているのです。今は死語かもしれませんが、将来ラブレターも書くかもしれません。これは型がないかもしれない。中には型が決まっていると「いやだ。自由に書きたい。」と思う人がいるかもしれません。けれど、よけい分かりにくくなって読むのに時間がかかり、本意が伝わらない場合があるかもしれない。型が決まっていると書類を多数枚扱う人にとっては「非常に見やすい」「要点が分かりやすい」といったメリットがあります。書く私たちも、その内容をよりよく理解してもらうために、それぞれの書き方のルールに沿って書き慣れる。その一つの訓練をしていると考えてください。